掃引モード　　単掃引
検波モード　　ポジティブピーク
ｎは、一の無線チャネルとして同時に使用する単位チャネル数。
バースト周期が長く掃引に時間がかかる場合は、掃引モードを連続掃引、表示モードをマックスホールドとして、表示波形の変動が無くなるまで測定することができる。この場合は、スペクトル分析器の掃引時間を短くすることができる。

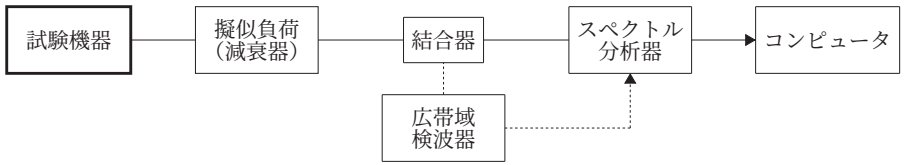
3　試験機器の状態
試験周波数に設定し、三の項と同じ変調条件に設定して送信する。

4　測定操作手順
⑴　掃引終了後、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。
⑵　全データについてdB値を電力次元の換算に変換する。
⑶　全データの電力総和を求め、全電力P_Cとする。
⑷　上側隣接チャネル漏えい電力P_Uの測定
ア　（搬送波周波数＋100kHz×（ｎ＋１））を中心に、単位無線チャネル幅（200kHz）内に含まれる各データをコンピュータの配列変数に取り込む。
イ　データ点ごとに電力真数に換算し、データ値の総和を求め、これをP_Uとする。
⑸　下側隣接チャネル漏えい電力P_Lの測定
ア　（搬送波周波数－100kHz×（ｎ＋１））を中心に、単位無線チャネル幅（200kHz）内に含まれる各データをコンピュータの配列変数に取り込む。
イ　データ点ごとに電力真数に換算し、データ値の総和を求め、これをP_Lとする。
⑹　それぞれの変調方式ごとに⑴から⑸までの測定手順を繰り返す。

5　試験結果の記載方法
結果は、
上側隣接チャネル漏えい電力比　$10\log(P_U/P_C)$
下側隣接チャネル漏えい電力比　$10\log(P_L/P_C)$
として求めた比と空中線電力（dBm単位）の測定値を加算して、隣接チャネル漏えい電力としてdBm単位で記載する。

七　副次的に発する電波等の限度

1　測定系統図



2　測定器の条件
⑴　副次的に発する電波等の限度（以下「副次発射」という。）の探索時のスペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

掃引周波数幅	30MHzから５GHzまで
分解能帯域幅	掃引周波数幅が30MHzから710MHzまで及び945MHzから１GHzまでの場合は、100kHz 掃引周波数幅が710MHzから945MHzまで及び１GHzから５GHzまでの場合は、１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

⑵　副次発射測定時のスペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

中心周波数	副次発射周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	測定する周波数が30MHz以上710MHz以下及び945MHzを超え１GHz以下の場合は、100kHz 測定する周波数が710MHzを超え945MHz以下及び１GHzを超え５GHz以下の場合は、１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	測定精度が保証される最小時間
掃引モード	単掃引
検波モード	サンプル

3　試験機器の状態
⑴　試験周波数に設定する。
⑵　受信のみの状態とする。
⑶　送信及び受信が共通の空中線を使用する無線設備で受信のみの状態に設定できない場合は、送信時間及び送信休止時間を固定する。

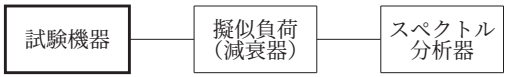
4　測定操作手順
⑴　スペクトル分析器を２⑴のように設定し、30MHzから５GHzまで掃引して副次発射の振幅の最大値を探索する。
⑵　探索した値が設備規則に規定する許容値以下の場合は、探索した値を測定値とする。
⑶　探索した値が設備規則に規定する許容値を超えた場合は、副次発射の周波数を求め、スペクトル分析器を２⑵のように設定し、平均化処理を行って平均電力を測定する。
⑷　送信及び受信が共通の空中線を使用する無線設備で受信のみの状態に設定できない場合は、⑴から⑶までの測定において、試験機器の送信出力を広帯域検波器を用いてスペクトル分析器の外部トリガ信号とし、送信時間を除く時間を測定する。

5　試験結果の記載方法
設備規則に規定する帯域ごとに副次発射の最大値の１波をdBm／100kHz又はdBm／MHz単位で、周波数と共に記載する。

6　その他
⑴　スペクトル分析器の感度が足りない場合は、低雑音増幅器等を使用することができる。
⑵　４⑴において、バースト波であって掃引時間が「（掃引周波数幅）÷分解能帯域幅×バースト周期」で求められる時間以上の場合は、「（掃引周波数幅）÷分解能帯域幅×バースト周期」を掃引時間として設定することができる。

八　送信時間制御

1　測定系統図



2　測定器の条件
スペクトル分析器の設定は、次のとおりとする。

中心周波数	試験周波数
掃引周波数幅	０Hz
分解能帯域幅	１MHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
掃引時間	設備規則に規定する許容値の２倍程度
検波モード	ポジティブピーク
トリガ条件	レベル立ち上がり